

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

岡山県教育委員会
教育情報化推進室

「情報活用能力」の育成と「(新)学び方」がポイント

児童生徒1人1台端末が整備されて3年目を迎えました。学習環境の前提の変化に伴い、教師が教える授業展開から、児童生徒が主体的に端末を活用しながら学ぶ授業展開に変わってきた学校があります。

一方、全国学力・学習状況調査（学校及び児童生徒質問紙）の結果から、岡山県では児童生徒が端末を活用する場面が単発的で、日常的な活用に至っていない児童生徒（学校）が多いという傾向が分かりました。

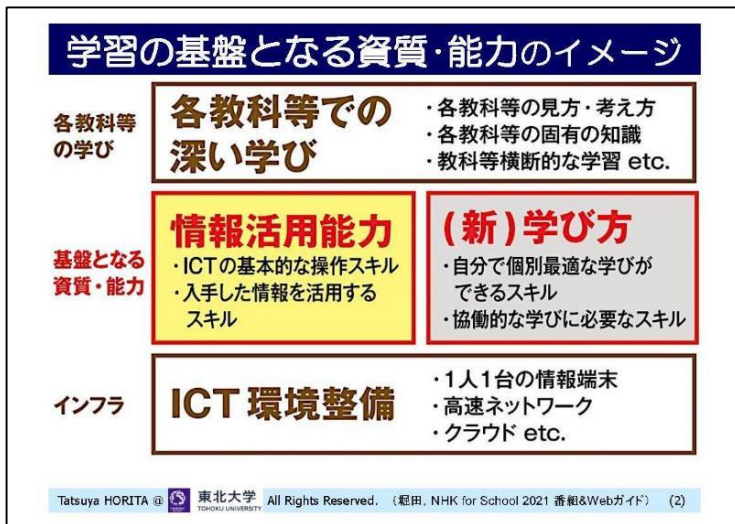


図1

児童生徒が主体的に1人1台端末を活用し、各教科等での深い学びを実現するためには、教師は各教科等の教科指導とともに「情報活用能力」「(新)学び方」を育成することが必要になります。（図1参照）

「情報活用能力」については、現行の学習指導要領で示された「学習の基盤となる資質能力」の一つで、各校において「情報活用能力育成の計画」等が作成され、育成が図られています。

「(新)学び方」については、「令和の日本型学校教育」の柱である「個別最適な学びと協働的な学び」ができるスキルが重要で、キーワードとして「自己調整」「自己決定」「相互啓発」等が挙げられます。

1人1台端末活用の先進校（地域）を例に挙げると、愛知県春日井市立高森台中学校では「生涯にわたって自ら学び続ける」、広島県廿日市市立廿日市小学校では「自立した学び手を育てる」、熊本県高森町では「自立した学習者の育成」というビジョンを掲げ、実現するためには児童生徒1人1台端末の活用が不可欠であると捉え、「情報活用能力」や「(新)学び方」を重視しながら授業改善に取り組んでいます。

今後更に岡山県における「1人1台端末環境を基盤とした授業改善」を推進するため、各校で取り組まれている実践の「情報活用能力」「(新)学び方」等に注目したレポートをシリーズでお伝えしていきます。

出典

文部科学省 StuDX Style ウェブサイト
「GIGAスクール構想と目指す学び」

東北大学大学院/東京学芸大学大学院
教授 堀田 龍也 氏

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/44.html>



文部科学省YouTubeチャンネル（約15分）

<https://www.youtube.com/watch?v=KP6PxCRSphg>

岡山県		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	学校回答	69.3	21.6	8.2	0.8	0.0
	児童回答	26.5	33.5	26.0	10.1	3.8
中学校	学校回答	59.7	27.3	11.0	1.9	0.0
	生徒回答	26.2	31.5	28.6	11.3	2.2

【参考】

令和5年度全国学力・学習状況調査
学校及び児童生徒質問紙回答まとめ

「PC・タブレットなどのICT機器を、
どの程度活用（使用）しましたか」 ※単位は%